



農作物に発生するヨトウムシ類の被害と見分け方

千葉大学大学院 園芸学研究院 **野村 昌史**

はじめに

ヨトウムシという、害虫の代名詞のような扱いになっている感もあるが、「ヨトウ」という和名が付けられているガの仲間、チョウ目ヤガ科 Noctuidae の中にはヨトウガ亜科 Hadeninae 以外にカラスヨトウ亜科 Amphipyrinae, ヒメヨトウ亜科 Condicinae, ツマキリヨトウ亜科 Eriopinae, キノコヨトウ亜科 Bryophilinae そしてキリガ亜科 Xyleninae 等の分類群の種にまたがっている(岸田 編, 2011)。これらの種には、樹木や農作物ではない草本類を食草としているほか、生態が明らかでないものや食草が不明なものも多く、必ずしも「ヨトウムシ=害虫」という関係は成り立たない。

しかしながら農林有害動物・昆虫名鑑(日本応用動物昆虫学会 編, 2006)では、チョウ目昆虫(主としてガ類の幼虫)が、いわゆる害虫種として最も多く記載されており(約 880 種)、農作物などへの加害が記録されているヨトウムシ類も 40 種ほどあげられている。広食性を示すものや農作物にかかわる種類も多く、本稿ではこれらの害虫種の中でも特に広範囲の作物に被害が多い種を中心に紹介したい。

ヨトウムシは「夜盗虫」という意味であり、昼間は土中や作物の葉陰等に潜んでいた幼虫が、夜になって現れ、葉を食べるところから名付けられているが、実際、若齢幼虫などは日中から植物体上で盛んに活動して摂食を行っており、夜間だけの加害とは限らない。

以下では様々な作物を加害するヨトウムシ類の中でも、多くの野菜などを加害し被害が多いヨトウガ、シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ、またイネやトウモロコシ等に被害をもたらすアワヨトウ、および最近日本への侵入が確認されたツマジロクサヨトウの 5 種について紹介するとともに、各種の識別点や農作物の被害についても紹介する。なお、寄主植物については、農林有害動物・昆虫名鑑(日本応用動物昆虫学会 編, 2006)、ツマジロクサヨトウについては、横浜植物防疫所(2020)を参考にした。

I ヨトウムシ類各種の概要

1 ヨトウガ *Mamestra brassicae* (ヨトウガ亜科)

(1) 分布

ユーラシア大陸に広く分布しており、国内でも北海道から九州にかけて分布している(吉松, 2011)。

(2) 寄主植物

トウモロコシ、ソバ、ジャガイモ、サツマイモ、ダイズ等マメ科植物、ナス科野菜、アブラナ科野菜、ネギ類、アスパラガス、レタス、ニンジン、ミツバ、セロリ、ハウレンソウ、ショウガ、イチゴ、かんきつ類、リンゴ、オウトウ等の果樹類、キク、バラ類、ユリ、カーネーション、スマレ類等の花き類など、非常に多岐にわたる。

(3) 生態、農作物への被害

4~5 月にかけて越冬世代の成虫が発生する。その後、野菜や花き類等の葉を食害し、土中で蛹化しほとんどの場合は夏眠する。場所により異なるが 8~10 月ころに 2 化目の成虫が発生し、次世代の幼虫は 9~11 月ころにかけて成長し蛹で越冬する年 2 化の生活史である(夏に発生する成虫を 2 回目の発生として、年 3 回の発生とする考え方もある)。

卵は卵塊(卵数は数十から数百にも及ぶ)で寄主植物の葉裏に産み付けられ(図-1)、産卵直後の卵は淡黄色だが、発生とともに赤みがかり、ふ化直前は黒化する。ふ化直後の 1 齢幼虫は緑色のイモムシで、集団で薄皮を残した摂食に

Identification of Armyworms in Crops and Damage. By Masashi NOMURA

(キーワード: ヨトウムシ類, ヨトウガ, ハスモンヨトウ, シロイチモジヨトウ, アワヨトウ, ツマジロクサヨトウ)